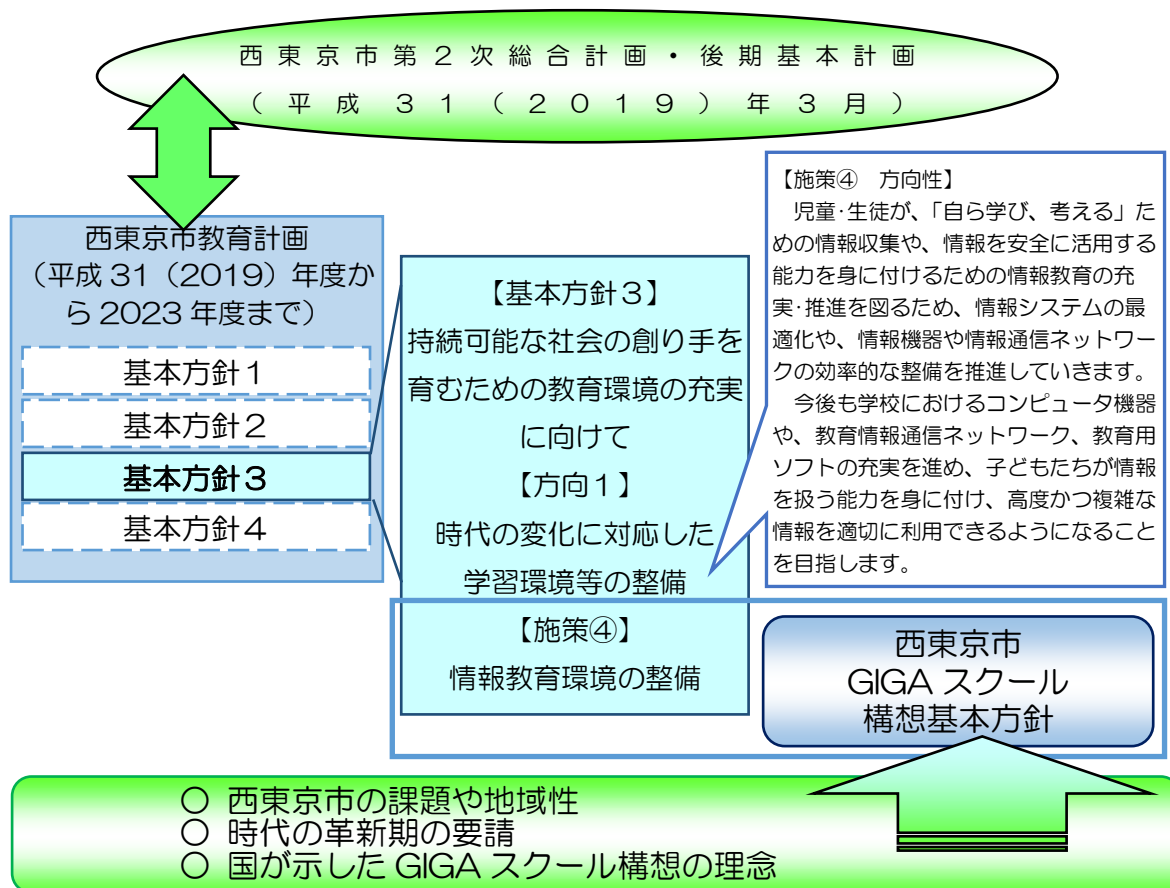


西東京市G I G Aスクール構想基本方針【概要版】

1 西東京市G I G Aスクール構想基本方針の位置付け

「西東京市G I G Aスクール構想基本方針」は、「西東京市第2次総合計画・後期基本計画」(平成31(2019)年3月)に基づき、策定されている教育計画の基本理念や方向性を受け、時代の革新期の要請と国が示したG I G Aスクール構想の理念、都の動向及び本市の特色を踏まえて、「西東京市G I G Aスクール構想」に関する方針を定めたものとなります。



2 西東京市G I G Aスクール構想実現のための基本的な考え方



考え方1 国や都の政策、西東京市の地域性を踏まえて、西東京市G I G Aスクール構想を検討します。



考え方2 現場で培われた教育実践と最先端のICTを組み合わせ(ベストミックス)、児童・生徒はもとより、教員のためになる構想を検討します。



考え方3 西東京市G I G Aスクール構想は、情報政策の専門家や教育行政の専門家の知見の活用はもとより、学校現場の知見や課題点を積極的に活用します。



考え方4 西東京市G I G Aスクール構想は、持続可能な社会の創り手を育むための教育環境の充実の視点を盛り込みます。



考え方5 情報セキュリティと利便性の調和を目指します。

3 ICT教育の授業や家庭での導入と段階的な活用

学習指導要領の中では、「教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力としては、それぞれの学習活動との関連において、言語活動を通じて育成される言語能力（読解力や語彙力等を含む。）、言語活動やICTを活用した学習活動等を通じて育成される情報活用能力、問題解決的な学習を通じて育成される問題発見・解決能力などが考えられる。」として、情報活用能力、問題解決的な学習の重要性に触れています。1人1台端末の配備により学習活動が一層充実するとともに、主体的・対話的で深い学びからの授業改善を図ることができま

す。また、本構想では、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに合わせて様々な能力を義務教育9年間の中で児童・生徒が身に付けられるようICTを活用した取組や教育内容を検討していきます。

学年ごとにICTを使って身に付ける教育内容例

<p style="text-align: center;">小学校第1学年～第4学年</p> <p>身近なものとしてICTに親しむ</p> <p>タブレット端末等の基礎的な使い方や簡単なプログラミングを通じて論理的思考を経験し、ICT機器に親しみながら自由に生活の中で活用することにより、ICTへの苦手意識をもたせないようにする。</p> <p>例：キーボードで文字入力してみる。理科の花の写真を撮り、特徴を話し合う。等</p>	<p style="text-align: center;">小学校第5学年～中学校第1学年</p> <p>情報モラルの必要性を踏まえた上で、授業等でICTを活用する</p> <p>教員の指示に従い、日常での使い方や教育内容の補充としてICTを使う中で、個人情報の保護や発信した情報に対する責任等の情報モラルについても理解を深める。</p> <p>例：英語の動画を視聴する。インターネットの検索サイトで調べ学習を行う。等</p>	<p style="text-align: center;">中学校第2学年～第3学年</p> <p>これまでの活用に加え、能動的にICTを活用する</p> <p>ICTを活用して、与えられた使い方だけでなく、これまでの知識を総合し、課題の発見や自ら「能動的に」ICTを活用できる力を養う。</p> <p>例：自分の必要とする情報を取捨選択しながら進路を調べる。等</p>
---	--	--

4 西東京市GIGAスクール構想の独自の活用項目

これまで述べた基本的な考え方に加えて、西東京市GIGAスクール構想では以下の項目の活用を検討します。

(1) 不登校対策

□ 学校と家庭、スキップ教室又はニコモールの3つをつなぐことで、様々な事情や必要性を踏まえた上で、支援機関を含めた三者での交流が考えられます。

(2) 特別支援教育

□ ICTを活用し、通常の学級や特別支援教室、特別支援学級のそれぞれの場面で児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに合わせた教育方法を検討します。

(3) 小中一貫教育の取組

□ 令和2年度から西東京市独自の小中一貫教育をスタートさせました。このことを踏まえ、小学校と中学校を結ぶICT活用についても検討します。